

すべての場面で必要とされる

# 力のコントロールセミナー

## なぜ、力のコントロールが必要か？

歯や咀嚼系に強い負担が加わることで、歯の摩耗や咬合性外傷が生じることは、以前より知られていましたが、最近の評価では、これ以外にも、楔状欠損や、知覚過敏、補綴物の脱離や破損、根の破折、顎関節症、頭痛など、歯科に関連する多くの障害がブラキシズムを中心とする“過剰な力”と関連することが明らかとなっています。また、睡眠時ブラキシズムの発生に伴う過大な力と、長期間繰り返しによる疲労や劣化現象を考えると、どんなに強固で精密な修復物を製作しても、長期的な予後は保証されないことが明らかです。

本セミナーでは、このような過剰な力による障害を予測・診断し、適切に対処する方法を習得して頂きます。

## 歯ぎしりなら、スプリントでしょ？

過剰な力が加わる際に、力を分散して歯の摩耗や破損を防ぐため、スプリントを装着するのは有効な対策の一つですが、スプリントがブラキシズムそのものを軽減していないことには注意が必要です。また、過剰な力は睡眠時のブラキシズムだけでなく、日中のクレンチングや咀嚼時でも発生しており、これらの障害を防止するためには、夜間にスプリントを装着するだけでは不十分です。総合的に見ると、過剰な力そのものを軽減すると同時に、力の生じた際に局所的な負担荷重を避け、力を分散させる咬合管理が必要と考えられます。

## 総合的な力のコントロール

本セミナーでは、下記の3つのステップを順次習得して頂きます。

### ① ブラキシズムの評価

強いブラキシズムが存在し、強い歯の摩耗を認めても、長期間何の障害もを認めない患者さんも少なくありません。従って、ブラキシズムの診査を行う際は、単にブラキシズムの有無を調べるだけでなく、力の局在の有無や、力による障害の有無を評価し、局在した力が障害とどのように関わっているのかを推定することが必要で、力に対する総合的な診断スキルが不可欠となります。本セミナーでは、ブラキシズムに対する総合的な評価を行って、障害の原因となり対処の必要なブラキシズムと、経過観察のみで対処の必要でないブラキシズムとの鑑別法を習得して頂きます。

### ② 力のアクティブコントロール

過剰な力を軽減することを目的とした方法であり、認知行動療法を中心に、必要に応じて薬

物療法を適用します。使用頻度の高い、認知行動療法では、患者さんの行動変容に繋がる、適切な指導法を習得して頂きます。

③ 力のパッシブコントロール

過剰な力が、加わった際に障害が生じにくい咬合管理について解説します。咬合管理法としては、ブラキシズムへの対処を目的とした新しい咬合管理法である“動的咬合平衡化 Dynamic Occlusal Equalization :DOEQ”の理論と具体的な実施法を習得して頂きます。また、症例によって補助的に適用する、ブラキシズム対応型のスプリントについて、適用症例も含めて解説を行います。

力のコントロールは、トータルで一日、実習を含めると一日半のコースになります。時間に合わせて、ポイントを絞ったショートレッスンも可能です。セミナー費用は、開催場所や参加人数によって異なるため、お手数ですが下記へお問い合わせ下さい。

Fax:03-6368-6664

Email:[2010nagata@mbr.nifty.com](mailto:2010nagata@mbr.nifty.com)

Facebook: <http://www.facebook.com/nkazuhira>

2011年11月 あごの機能研究会 new